

## 会議報告

# さけます報告会

ひらま よしのぶ

平間 美信（北海道区水産研究所 さけます生産技術部 技術課）

## はじめに

今年で2年目となる「さけます報告会」は、さけます類のふ化放流を科学的かつ効果的に推進し、ふ化放流技術等の普及や改善を促すことなどを目的に開催しています。

## さけます報告会

平成29年8月1日に札幌市で、さけ・ますふ化放流事業に関する行政機関、試験研究機関、増殖団体、漁業者、さけ・ますに興味のある一般の方、当機構内関係部署等249名の参加の下、さけます報告会を開催しました。

主催者を代表して北海道区水産研究所（以下、北水研）中津所長の挨拶に続き、来賓を代表して水産庁増殖推進部栽培養殖課の伊佐課長から挨拶をいただき、7課題について報告を行いました。

### 1. 平成28年度漁期におけるサケ資源状況について

北水研さけます資源研究部の福若部長から、同日午前で開催された「さけます関係開発等推進会議研究部会」での検討結果について、概要が報告されました（詳細については「さけます関係研究開発等推進会議 研究部会」の項を参照下さい）。

### 2. 北太平洋のサケ資源の状況とベーリング海調査結果について

北水研資源保全グループの鈴木グループ長から、北太平洋のさけます類の商業漁獲量は高水準を維持している一方で、隔年変動が大きくなっていること、北太平洋全域のさけます類放流数は昭和63年頃から一定の水準にあり、サケの放流数は日本



写真1. 「さけます報告会」全景。



写真2. 来賓挨拶：水産庁栽培養殖課 伊佐課長。



写真3. (左) 北海道区水産研究所 福若部長。  
(右) 北海道区水産研究所 鈴木グループ長。

が最も多いが、近年ロシアからの放流数が増加傾向にあること等の説明がありました。また、平成28年のベーリング海調査では、平均漁獲尾数が平成26～27年に比べ増加したこと、ベーリング海の表面水温は高水温傾向にあるが、小型の動物プランクトンの現存量は増加したこと、漁獲されたサケの系群組成では日本系の減少と北米系の増加が顕著であることなどが報告されました。

### 3. 平成29年度サケ来遊予測

#### ①. 北海道のサケ来遊予測

北海道立総合研究機構さけます・内水面水産試験場の藤原研究主幹から、昨年（平成28年度）のサケ来遊状況結果は平成以降最も少ない来遊数であり、主群となる4年魚の来遊不振が要因と考えられること、平成29年のサケ来遊予測は、5年魚が前年より下回ることが予測されるため、3,000万尾を下回る厳しい予測となっていることが報告されました。

#### ②. 山形県のサケ来遊予測

山形県水産試験場浅海増殖部の高澤主任専門研究員からは、近年の来遊状況は平均15万尾で、平成27年は過去2番目となる32万尾の好漁であ

ったが、平成28年は15万尾で、平成29年度のサケ来遊予測は、平成28年度を大きく下回る8万尾となっていることが、山形県のふ化事業の紹介と合わせて報告されました。

#### 4. 三陸沿岸域の海洋環境とサケ回帰率の関係

日本海区水産研究所資源環境部海洋動態グループの和川研究員から、岩手県のサケ回帰率は平成22年付近を境に低下しており、低下前後（平成21年と平成23年）のサケ回帰率とそれぞれの3年前（平成18年と平成20年）の海洋環境について、岩手県水産技術センターの観測資料を用いて調べたところ、低下前の平成18年は低温・低塩分な親潮水や表層水が、低下後の平成20年は高温・高塩分な津軽暖流水や黒潮水等が分布しており、サケ稚魚の沿岸滞留期の海洋環境が高温・高塩分化することが、3年後のサケの回帰率低下に影響すると示唆されることが報告されました。

#### 5. 地域個体群による仔稚魚の発育と飼育開始時期について

北水研虹別さけます事業所の大本主任技術員から、異なる地域個体群のサケ仔稚魚の発育や飼育開始時期について調べた結果が報告されました（詳細については「サケ仔魚の発育と飼育開始時期の地域差について」の項を参照下さい）。

#### 6. 耳石温度標識を用いて・・・

北水研技術課の戸嶋主任技術員からは、斜里川に回帰したサケの耳石温度標識結果から、10月に生まれたサケは、ほぼ同じ旬かその前旬に多く遡上しているが、11月中旬に生まれたサケはより幅広く、2旬前から遡上していることや、1年目のサケ幼魚のオホーツク海の回遊経路がロシアの調査で明らかになったことが報告されました。また、野生魚とふ化場魚を明確に区別することを目的に、今年度からカラフトマス的人工ふ化放流魚全てに耳石温度標識を付けて調査を行うことが報告されました。

#### 7. 宗谷岬周辺を通過するサケ幼稚魚を採集する試み

北水研天塩さけます事業所の宮内主任技術員からは、日本海を北上し宗谷海峡を通過するサケ稚魚の成長や移動状況を把握することを目的として行っている、宗谷岬周辺におけるサケ幼稚魚の採集調査について、調査の実施状況と、採集した稚魚の耳石温度標識を調べた結果、石狩川や天塩川、頓別・幌内川の他、ロシアのサハリンから放流された魚が確認されたことが報告されました。



写真4. (左) さけます・内水面水産試験場 藤原研究主幹。  
(中央) 山形県水産試験場 高澤主任専門研究員。  
(右) 日本海区水産研究所 和川研究員。



写真5. (左) 北海道区水産研究所 大本主任技術員。  
(中央) 北海道区水産研究所 戸嶋主任技術員。  
(右) 北海道区水産研究所 宮内主任技術員。

## アンケート結果

今後のさけます報告会を充実させるため、報告会の参加者にアンケート調査を実施しました。設問1の「役立つ内容であったか」については、「はい」(72%)と「まあまあ」(28%)で100%となり、皆様から好評価をいただきました。設問2の「資料は役に立つ内容であったか」については、「はい」(75%)と「まあまあ」(24%)で99%となりましたが、「あまり」とした回答も1%あり、「全ての発表資料の配付」の要望がありました。また「取り組むべき研究開発課題やさけます報告会への意見・要望について」は、サケの不漁要因の解明を求める声や耳石温度標識の分析結果を用いたふ化放流事業の技術開発についての要望など、多くの意見をいただきました。

## おわりに

今年度で2回目となる「さけます報告会」ですが、さけますに関係する機関や団体、さけますに興味のある一般の方々にも参加いただき、情報交換を行う貴重な場として今後も開催していく予定です。

また、参加された皆様に協力を頂いたアンケート調査の意見などを踏まえ、より充実した報告会になるよう努めて参ります。